

議会からのお知らせ

大豊町中学校3年生による模擬議会を開催

12月18日大豊町中3年生9名による模擬議会が開催されました。この模擬議会には中学2年生5名、現職議員等が傍聴のもと本町の未来について中学生議員9名が代表質問などを行いました。

少し緊張気味で開催した模擬議会の質問内容は、仮庁舎周辺の安全対策、新校舎建設時の要望、避難所のバリアフリー、災害時の移動手段、英語教育の方針、JR利用による通学問題、移住の促進、空き校舎の利活用、特産物の開発などで、岩崎憲郎町長も、本議会さながらの答弁となりました。最後に、地域で働いているさまざまな人たちの現状などを取材した「志を持って町内で働く人々」の紹介ビデオがあり、地域に対する関心の高さに驚かされました。

今後は地域の一員として本町を担う活躍を期待いたします。



模擬議会

編集後記

皆さん良いお年を迎えられたことと存じます。恒例の成人式が1月12日にありました。成人式を家族や同級生で共に祝われた若人も学業や実社会に帰って、頑張っている事でしょう。エールを送ります。

今年の大きな行事として、5年に一度の国による調査があります。2月1日の農林業センサスと10月1日の国勢調査です。この二つの調査は、国から大豊町に入る交付税に直接かわり、そして皆さんの生活のサービスにつながります。非常に大事な調査でありますので住民全員の参加をお願いいたします。

この冬は意外と暖かく、雪も非常に少なく、地球温暖化が、日々進行している事を実感しています。心配されます集中豪雨がないことを祈ります。

この一年が皆様にとって、良い年でありますように。

重森 一宗

ご意見やご感想は：
大豊町議会事務局
電話7210450(代表)

委員会の動き

令和元年12月13日
総務産業建設常任委員長 上池如夫

町内各種研修施設に関する調査

町内の研修施設として、移住促進研修所（西峯ひだまりの家、岩原むかいだの家）、農業研修生用宿泊施設（ゆとりっこ寮）を調査した。

移住促進研修所は、移住希望者が町内での生活や地域交流を体験できる施設で最大1カ月滞在でき、使用料は滞在期間に関係なく2万5千円で、使用状況は、西峯ひだまりの家が本年度2組で88日間、岩原むかいだの家が平成29年度から7組171日間となっており、本来の目的とは離れた簡易宿泊施設としての利用などもあり、使用料を改正した経緯もある。今後は、大豊町への移住の動機、希望などしっかり聞き取り、移住後は地域の一員として積極的に行事等に参加してもらえるよう説明をしっかりと、移住促進に繋がる取り組みにすべきである。

農業研修生用宿泊施設は、担い手を育成することで農業後継者を増やし、集落や優良農地の維持・管理に繋げるため研修生等を受け入れている施設である。使用状況は、平成29年度から農業研修生1名、インターンシップ92名、農業体験者2名となっている。今後は農業研修のイベントを活用し、生活環境の支援等の施策と併せて魅力を積極的に発信する必要がある。



西峯ひだまりの家

令和元年12月13日
教育民生常任委員長 小笠原妙子

小中一貫教育に関する調査

平成21年1月、小中一貫教育標準カリキュラムの策定から始まり、平成26年10月には小中一貫教育全国サミット in 姫路を開催するなど、義務教育学校の設置検討会や学校、保護者、地域住民、そして教育行政が一体となり、約10年間にわたる準備期間を経て、平成30年4月に姫路市立白鷺小中学校が開校した。

白鷺小中学校の学校経営方針としては、「義務教育学校の制度を生かし、9年間の児童生徒の発達と学習の連続性を重視した教育を実施し、一人一人の自己実現を目指す」、「義務教育学校全教職員の協同体制を確立するとともに、家庭・地域社会と一体となった学校づくりを目指す」とあり、「小中一貫教育を通じて、確かな学力と人間関係力を身に付けた児童生徒を育成する」ことを学校教育目標としている。



姫路市立白鷺（はくろう）小中学校

研修時には、白鷺小中学校の山口偉一校長から開校に至るまでの様々な取り組み、現在の状況や都市部に位置する学校ならではの課題点などを伺い、全教職員と家庭、地域社会が一体となったコミュニティスクールを目指した学校づくりに情熱と愛情を感じることができた。

本町に開校予定の小中一貫校もまさに地域との強いつながりを持つコミュニティスクールとしての義務教育学校の開校を目指し、課題解決を図りながら行政や地域住民一体となった体制づくりが必要である。